

「税と生きる」

福岡教育大学附属久留米中学校 3年 酒井 叶愛

「今年の夏は…」

今年は例年と違い短い夏休みであったが、忘れられない夏となった。

令和二年七月、私が住んでいる久留米市では豪雨の影響により、筑後川で氾濫が発生した。近年、熊本地震、西日本豪雨、九州北部豪雨など多くの災害が起こっている。

そのような中で、久留米市からは、災害見舞金、住宅消毒、ごみ回収など様々な支援についての連絡が届いた。また、今年は新型コロナウイルス感染症の関係で、災害時の避難所、ボランティアの人数の制限など大変な状況の中での支援だったようだ。

私は、今まで災害時のこのような支援は当たり前だと思っていた。しかし、近年毎年のように起こる災害に加え、未知のウイルスの不安の中で、この当り前の支援を受けられることについて深く考えるようになった。

私達は生活の中で、当たり前支援を受け、そのおかげで幸せに安心して生活することができている。警察、消防の方々の活動、教育、医療など様々なことは、なぜ当たり前なのだろうか。私達が当たり前で受けていることは、大人の方々が払って下さる税金のおかげなのだ。もし、これらの税金がなければ、災害がおきても道路は復旧せず、壊れた水道からきれいな水が出てくることはない。私は、身近な場所で災害が起きる前、遠くの被災地のために貯金から募金活動に協力したらよいと思っていた。しかし、それだけではその時一回のみで終わってしまう。また、税金は難しく、少し嫌なイメージもあった。自分の支払った消費税などについて気になっていたが、このように使われていることを知り、税金の恩恵に改めて気付かされた。人々が払って下さった税金は、別の形で困っている誰かを救うことにつながっているのだ。

今年は、新型コロナウイルスのPCR検査、治病床の確保、ワクチン開発など今までなかったことも必要とされている。これらも税金によって成り立っていることを知り、改めて税金の大切さを感じた。私達は、今の日本の現状を理解する必要がある。私は社会は人と人との繋がりで成り立っているのだと思う。税金によって、日本が今まで以上に豊かで幸せになるよう、私達若い世代が今まで受けてきた当たり前感謝し、支えて、未来へとつなげていけるようになりたい。

「これからの日本のために、私達にできることを一つずつ、感謝の気持ちと共に。」